

「自分こそは神であると宣言する」

2018年11月30日

テサロニケの信徒への手紙 二 2章1節～4節 さて、兄弟たち、わたしたちの主イエス・キリストが来られることと、そのみもとにわたしたちが集められることについてお願いしたい。霊や言葉によって、あるいは、わたしたちから書き送られたという手紙によって、主の日は既に来てしまったかのように言う者がいても、すぐに動揺して分別を無くしたり、慌てふためいたりしないでほしい。だれがどのような手段を用いても、だまされてはいけません。なぜなら、まず、神に対する反逆が起こり、不法の者、つまり、滅びの子が出現しなければならないからです。この者は、すべて神と呼ばれたり拝まれたりするものに反抗して、傲慢にふるまい、ついには、神殿に座り込み、自分こそは神であると宣言するのです。

「著者」は、「さて、兄弟たち」と語調を変えて語りかけている。主イエス・キリストが来られることと、その御もとに私たちが集められることについてお願いしたい。霊や言葉によって、また、私たちが書き送った手紙によって、主の日は既に来てしまっているかのように言う者がいても、すぐに動揺して分別を無くしたり、慌てふためいたりしないでほしい。当時、霊的熱狂主義者や黙示的預言者たちが、主イエスは既に来られたと熱烈に言いふらし、様々な情報によって、人々は混乱を起こしていた。しかし、それらはウソの情報だから、「だれがどのような手段を用いても、だまされてはいけません。」と心を惑わされないように、と警告している。主イエスが来られる前は、「不法の者、つまり、滅びの子が出現しなければならないから」である。

主イエスは、主の日の前には、次のようなことが起こると、マルコ福音書13章19節～23節で、黙示文学的に語っておられる。「神が天地を造られた創造の初めから今までなく、今後も決してないほどの苦難が来るからである。主がその期間を縮めてくださらなければ、だれ一人救われない。しかし、主は御自分のものとして選んだ人たちのために、その期間を縮めてくださったのである。そのとき、『見よ、ここにメシアがいる』『見よ、あそこだ』と言う者がいても、信じてはならない。偽メシアや偽預言者が現れて、しるしや不思議な業を行い、できれば、選ばれた人たちを惑わそうとするからである。だから、あなたがたは気をつけていなさい。一切の事を前もって言うておく。」と予告され、これらの苦難と混乱の後、天変地異が起こり、「人の子が大いなる力と栄光を帯びて雲に乗って来るのを、人々を見る（マルコ13:26）。」要するに、主の日の前には苦難と混乱があるということである。

Ⅱテサロニケでも、「神に対する反逆が起こり、不法の者、つまり、滅びの子が出現しなければならないからです。この者は、すべて神と呼ばれたり拝まれたりするものに反抗して、傲慢にふるまい、ついには、神殿に座り込み、自分こそは神であると宣言するのです」と書いている。主イエスが、偽メシアや偽預言者が現れて、しるしや不思議な業を行い、人々を惑わすと言われたように、神に反逆する滅びの子が出現し、傲慢に振舞い、神殿に座り込み、自分こそは神であると宣言する。しかしそれらは、主の日が到来する前に起こることであるから、すぐに慌てふためく必要は全くない。主の日、終りの日の全き救いを待ち望んで、落ち着いて、目を覚まし、今の時を、福音を信じ、福音に従って生きることが大切であると諭している。